

郷土かみのかわの歴史・文化財

町指定文化財 宝光院の薬師如来坐像

今月紹介するのは、多功の

宝光院の薬師如来坐像です。

宝光院のある場所は、鎌倉時代以降、多功城の城内に位置し、

江戸時代以降、関宿通多功道の多功宿に位置するなど、

人の往来のある場所でした。

宝光院は807（大同2）年に建立されたものの、その後

焼失し、多功城が築城されて間もない1261（弘長元）

年に再興されたと伝えられています。しかし、その後は

災難の連続で、宝徳年間（1449～51年）、1745（延享2）

年、1756（宝暦6）年と幾多の火災にありました。こ

の災難によって、多くの建物や文書がなくなってしまう

しましたが、そのような中で、現在に伝えられるのが

1088（寛治2）年に宝光院にやってきたと伝えられ、

60年に一度開帳される、秘仏

薬師如来坐像なのです。

この薬師如来坐像は、みな

さんが知っている木や銅で作られた仏像とは違って、顔の

部分は銅製ですが、頭から体のほとんど鉄で作られた『鉄仏』

といわれる珍しい仏像なのです。鉄はご存知のとおり、

錆によって腐食しやすいことから、素材として余り好ま

れることは無かったのですが、荒々しい表面の様子が、武士の気

風とあつたのでした。この鉄仏は全国に100体ほどし

がなく、作られた時期も鎌倉時代に集中することから、貴

族の時代から武士の時代へと政治のみならず、文化も変

わつていく、まさに変換期に作られた仏像ということが

できます。

高さは51cmで、膝の幅は41cmという大ききで、全体の彫

りは浅いものの、背中の衣文

や足の指も丁寧に作られ、鉄

仏の中でも非常に優秀な作

品であることから、かなり腕

の良い鋳物師によって制作さ

れたものと考えられています。

伝承では平安時代の作と伝

えられますが、作風からは鎌

倉時代のものと考えられます。

宝光院は幾度となく火災に

あつていますが、鉄製であつ

たことが幸いしてか、無くな

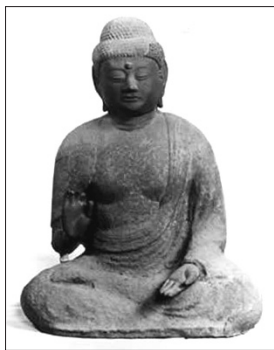
ることなく、現在に至つてい

るからこそ、多くの人々から

霊験あらたかな仏様として、

信仰を集めているといえる

でしょう。



※宝光院の薬師如来坐像は、秘仏のため、公開はされておられません。

鎌倉	平 安 時 代																時代		
1192	1189	1185	1184	1183	1182	1180	1167	1159	1088	1083	1051	940	939	902	899	875	817	807	西 暦
建久3	文治5	文治元	元暦元	寿永2	寿永元	治承4	仁安2	保元4	寛治2	永保3	永承5	天慶3	天慶2	延喜2	昌泰2	貞観2	弘仁8	大同2	元 号
源頼朝、征夷大將軍に任せられる。	源頼朝、奥州征伐の途上、宇都宮二荒山神社を詣で、藤原氏との決戦の勝利を祈願する。	平家、壇ノ浦で滅亡。	宇都宮朝綱、源頼朝より本領を安堵され、新恩を給付される。	源頼朝、朝廷より東国を統括する権限を与えられる。	宇都宮朝綱、鎌倉に出仕。	源頼朝、伊豆で挙兵。	平清盛、太政大臣になる。	平治の乱が起きる。	薬師如来像（鉄仏）が宝光院に伝来するという。	後三年の役が始まる。	前九年の役が始まる。	平将門、平貞盛・藤原秀郷の軍に敗れる。	平将門が下野国府を攻め、これを焼く。	最後の班田制が行なわれる。	上野国一帯で就馬党が反乱を起こす。	下野国に移住した俘囚が反乱を起こす。	最澄、東国巡化。	多功の宝光院が、宝徳僧都によって創立されるという。	できごと